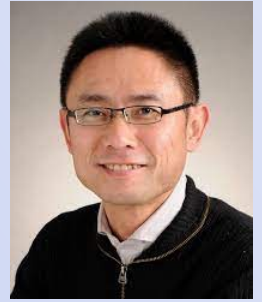


第3回理学部RCセミナー

基礎研究を世に問う： 大学で何をやってみたいのか？

講演者：筑波大学数理物質系

教授 白木 賢太郎



日時：2023/3/9（木）10:15-11:45

場所：理学部講義棟S32

卵白を薄めた溶液を加熱すると白濁します。この溶液にアルギニンを入れておけば、90℃で30分加熱しても凝集しなくなります。このようなタンパク質凝集と凝集抑制剤について論文を報告してきましたが、これは本当の基礎研究でありながら、少しの工夫で食品や医薬品や美容品などの分野の課題の解決に役立てることができます。

これまでキューピー、マルハ、不二製油、味の素、小野薬品工業、テルモ、ミルボンなど20社以上の企業と共同研究や学術指導の形で連携し、特許や論文をまとめたり製品化したりしました。また、可逆性の高い凝集体が生命現象を理解する鍵になるのではと、ここ数年たいへん注目を集めていますが、これを『相分離生物学』という分野として体系づけ、教科書・専門書・一般書の三部作をまとめています。

基礎研究は必ず世に役立ちますが、自分の研究成果を世に出すためには、ちょっとだけ秘訣があると思います。今回の講演では、企業との産学連携や、高校生物の教科書などの執筆活動、15年以上連載している2つの科学エッセイの活用法など、大学教員としてはサブテーマになる活動をお話してみようと思います。

共催：第7回先端ナノ・バイオ分析セミナー、プラズマ医療・農水産応用研究ユニット

連絡先：座古保 (化学コース、ext 9609)